



クリスティアン・アルミンク
音楽監督就任!
《SECRETS ~音楽の不思議~》

広島交響楽団 第446回定期演奏会

Hiroshima Symphony Orchestra The 446th Subscription Concert



指揮
クリスティアン・アルミンク
Conductor: Christian Arming

©Shumpei Ohsugi

2024.11.27(水)

18:45開演 [17:45開場] Wednesday November 27, 2024
Start 18:45 [Open 17:45]

広島文化学園HBGホール 広島市中区加古町3-3

Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

コンサートマスター: 北田千尋

Concertmaster: Chihiro Kitada

主催/公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社



文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 合人社財団

ブラームス

ピアノ協奏曲第2番

変ロ長調作品83

Brahms: Piano Concerto No. 2 in B-flat major Op.83

マルティヌー

交響曲第6番 H. 343 「交響的幻想曲」

Martini: Symphony No. 6 H. 343 "Fantaisies symphoniques"



ピアノ
ゲルハルト・オピッツ
Piano: Gerhard Oppitz



Gift、下野からアルミンクへ

アルミンクが生まれたオーストリア・ウィーンは、ヨーロッパの様々な国々に囲まれているが故に芸術の中心として栄えてきた。これからのアルミンクの路線は隣国を含む様々な国の作品を取り上げる。とりわけチェコの作曲家には、指揮者の出発点に関わり特別な想いを寄せている。そこで今回は盟友・下野竜也が未達成とした申し送り事案のマルティヌーの交響曲を補完する。巨匠オピッツとの共演もコロナ禍で達成できなかった下野からの贈り物となった。

チケット(税込/全席指定)
S席5,800円・A席5,200円・B席4,500円(学生1,500円)
※学生席は小学生以上25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみ取り扱い)

チケット発売日/2024年9月27日(金)
プレイガイド/
ローソンチケット(Lコード:60006)、チケットぴあ(Pコード:265-257)、広響事務局

プレミアム協賛/ 合人社グループ

後援/広島県、広島市、広島市教育委員会、NHK広島放送局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、ちゅびCOM、月刊ウェンディ出版局

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。
※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。
※開演時間に遅れられた場合、入場に制限がございます。

お申し込み・お問い合わせ
広響事務局 TEL:082-532-3080 <http://hirokyo.or.jp>



広響公式HP

Gift、下野からアルミンクへ

指揮

クリスティアン・アルミンク Conductor : Christian Arming

ウィーン生まれ。レオポルト・ハーガーや小澤征爾のもとで研鑽を積み、ボストン響や新日本フィルにデビュー。ヤナーチェク・フィル(チェコ)の首席指揮者、ルツェルン歌劇場およびルツェルン響の音楽監督などを経て、2003~13年に新日本フィル、2011~19年にベルギー王立リエージュ・フィルの音楽監督として活躍した。2017年から、広島交響楽団の首席客演指揮者を務め、2024年4月に同団の音楽監督に就任。これまでにチェコ・フィル、ドレスデン・シュターツカペレ、フランクフルト放送響、ウィーン響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、トゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマン管、ボストン響、シンシナティ響、N響などに招かれ、オペラではフランクフルトやストラズブルの歌劇場、新日本フィルなどで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》《フィレンツェの悲劇》などを指揮している。2019年には小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトで小澤征爾と共に《カルメン》全4公演を指揮した。レコーディングも数多く、ヤナーチェク・フィルとのヤナーチェク、シューベルト作品、新日本フィルとのブラームス/交響曲第1番、マーラー/交響曲第3番および第5番、リエージュ・フィルとのフランク/交響曲二短調などをリリース。また、シルバ・オクテット、リエージュ・フィルとの共演によるディスクがドイツ・グラモフォンからリリースされた。



©Shumpel Ohsugi

ピアノ

ゲルハルト・オピッツ Piano : Gerhard Oppitz

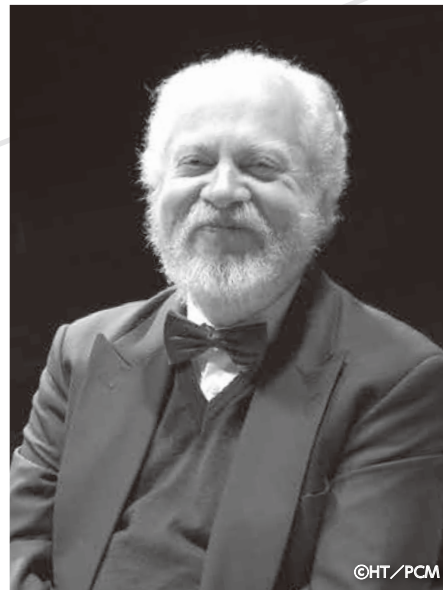
ドイツ・ピアノ界の正統派を代表する演奏家。音楽解釈におけるこの楽派の流れは、オピッツ自身の師であるヴィルヘルム・ケンプに繋がり、その源流はリストやベートーヴェンにまで直接遡る。

1977年、第2回アルトウール・ルービンシュタイン国際コンクールで優勝し、一躍世界的な脚光を浴びた。1981年、ミュンヘン国立音楽大学で開校以来最も若い教授となる。

これまでに、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめとする著名なオーケストラ、カルロ・マリア・ジュリーニ、ロリン・マゼール、ズービン・メータ、サー・コリン・デイヴィス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ等一流の指揮者と共演している。

古典から現代まで幅広いレパートリーを持ち、ベートーヴェンとブラームスに関しては、世界最高の演奏者の一人として確固たる地位を確立している。これまでに発売されたCDは80枚を超える。

日本では1994年、NHKテレビのベートーヴェン・ソナタの演奏およびレッスンが爆発的人気呼んだ。ベートーヴェン、シューベルト、シューマン&ブラームスの連続演奏会も好評を得る。親日家でもあり、日本で最も人気のあるピアニストの一人である。



©HT/PCM

次回予告 第447回プレミアム定期演奏会

2025.1.31 (金) 18:45開演 [17:45開場] 広島文化学園HBGホール

スラットキン: シューベルト「アデーラ交響曲」(広響委嘱・世界初演)

シューベルト: ピアノと管弦楽のための「さすらい人幻想曲」(リスト編曲)

マーラー: 交響曲第1番ニ長調「巨人」



©Niko Rodamel

指揮: レナード・スラットキン



©Takehiro Goto

ピアノ: 小菅優